

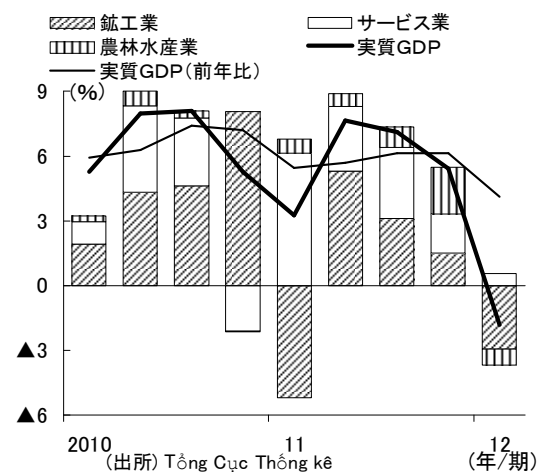


ベトナム経済マイナス成長

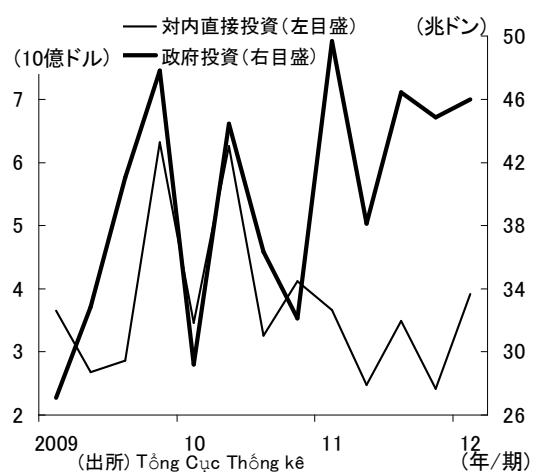
～ 消費主導型成長へ ～

- (1) 本年1～3月期のベトナム経済は前年比4.0%成長（図表1）。リーマン・ショック直後の2009年前半を除くと、2000年代に入り同国経済は長らく7～8%台の高成長。09年半ば以降も6～7%成長。4%は成長減速。さらに季節調整を施してみると前期比年率▲1.8%のマイナス成長に。2000年代入り後の前期比マイナス成長は、リーマン・ショック直後の08年10～12月期▲0.7%のみ。今回は08年10～12月期を上回る大幅なマイナス成長に加え、寄与度をみると、鉱工業と農業でマイナス。サービス業ではほぼゼロ。少なくとも本年1～3月期をみる限り、成長牽引役が見当たらず。
- (2) これまでの高成長は投資主導型。原動力は外資進出と政府の公共事業。しかし外資の対内直接投資は10年半ば以降、弱含み（図表2）。一方、政府投資はリーマン・ショック後、09年央から盛り上がったものの11年初をピークに一進一退。国サイドでは3月以降、積極的に積み増す動き。しかし政府投資の4分の3を占める地方サイドでは、1～4月で前年比▲10.1%と大幅なマイナス。総じて資本形成は11年半ば以降伸び悩み。外資を含め今後、大きな情勢好転は見込み薄。
- (3) 一方、鉱工業生産は春節要因で本年1月、大幅なマイナスに陥ったものの、2月以降、昨年末の水準を回復（図表3）。とりわけ製造業では月毎の変動はあるものの4月まで増勢維持。しかし同国中央統計局によると、4月の生産増は在庫増に起因。
- (4) サービス分野を含め、経済全体の動きを示唆する人流・物流動向をみると、海外から同国への旅行ブームの盛り上がりも重なり、旅客輸送量では増勢持続（図表4）。しかし、貨物輸送量は昨春をピークに夏以降、一進一退。一方、卸小売売上は昨年末一段と増勢加速。同国経済では設備主導から消費主導型へ成長軌道のシフト進展。本年の同国経済は安定成長に。

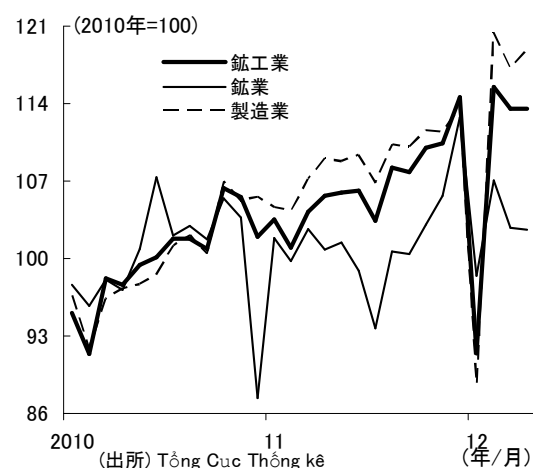
（図表1）ベトナムの実質成長率（季調済前期比年率）



（図表2）政府投資と対内直接投資（季調済）



（図表3）鉱工業生産（季調済）



（図表4）旅客・貨物輸送量（季調済）

